第22回建設マネジメント問題に関する
研究発表・討論会講演集　2004年12月

道を考える女性ＮＰＯと協働による須沢地下横断歩道ワークショップ

国道交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所　○山崎　義文*1
近藤　進
By Yoshifumi YAMAZAKI, Susumu KONDOU

高田河川国道事務所では、誰もが安心して利用できる自転車・歩行者空間をめざした道路整備を進めている。

一般国道８号新潟県青海町須沢地区では、横断歩道橋の老朽化に伴い、地下横断歩道の新設工事を行った。

当該地区は近隣の青海町立田沢小学校の通学路でもあり、利用者の９割が小学生であるという特性からも、より地域の実情にあった地下横断歩道にすることが重要であった。また、より安全で利用しやすい地下横断歩道づくりを望む声が多く、特に小学生や高齢者、女性を中心とした利用者の意見を広く聞きながら、地域に親しまれる地下横断歩道づくりを進めていくことが求められた。

そこで、地元の声を活かす方法を検討し、当事務所初の取り組みとして、ＮＰＯ法人と協働で地域住民を巻き込んだワークショップを実施することとした。本稿は、その取り組みについて報告するものである。

【キーワード】合意形成・ＰＩ・ＮＰＯとの協働

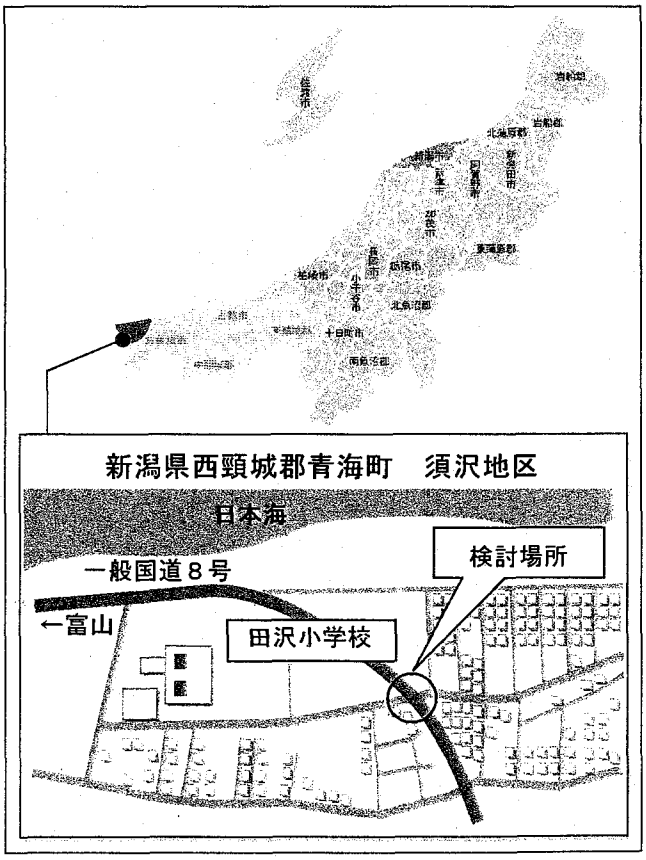
1. 概要

(1) 工事概要

旧須沢横断歩道橋は、一般国道８号新潟県西頸城郡青海町須沢地先に位置した。

旧横断歩道橋から１００ｍ程度の所に、青海町立田沢小学校があり、通学路に指定されている。昭和４３年に架設された横断歩道橋は、児童を中心として約２００人／日以上の利用者があるが、老朽化が著しかった。そのため、横断歩道橋を撤去し、斜路付の地下横断歩道を設置することで、歩行者・自転車の利便性向上、及び冬季を含めた通年の利便性向上を図るものである。

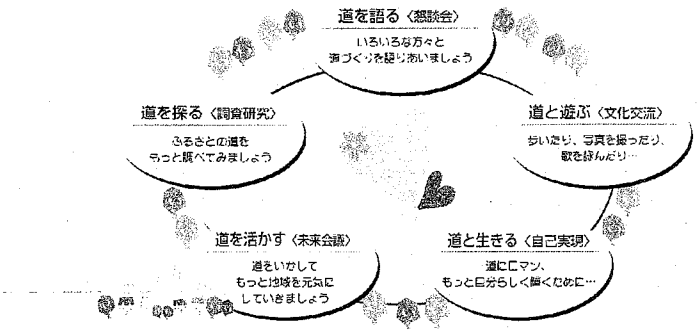
図－１　横断歩道を渡る児童



図－２　位置図

*1　調査第二課　025-521-4545

(2) ＮＰＯ法人の概要



図－３女性みちみらい上越の活動テーマ

平成１５年８月にＮＰＯ法人格を取得し「女性みちみらい上越」として、新潟県上越地域２２市町村の「道」をキーワードに、女性の視点からの道づくり・まちづくりについて、行政や地域の人々を巻き込んだ活動を行っている団体である。

今回、ワークショップについては、ＮＰＯが地域・行政の仲介役として運営を行った。

図－４　くらしの道調査隊

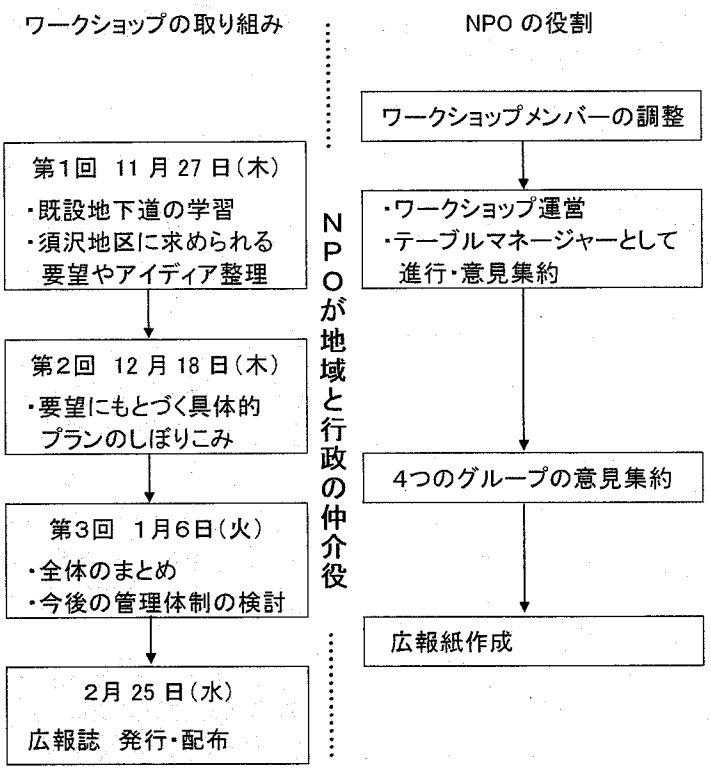
ＮＰＯでは、ワークショップに先立ち、「くらしの道調査隊」として、一般国道８号上越～糸魚川間にある地下横断歩道６ヵ所を訪れ、構造やデザイン、バリアフリーへの対応、老朽化の状況や管理状況などの調査を行った。

2. 実施方法

(1) ワークショップの流れ

３ヵ月間に３回のワークショップを実施し、現況や要望の整理、プランの絞り込み、プランの見直しと今後の管理体制についての検討を行った。

表－１　ワークショップの流れ



ワークショップの結果は各回終了後適宜ホームページに掲載し、３回目終了後には検討内容をまとめた『「須沢地下横断歩道」についてのお知らせ』を発行し、青海町全戸（約３，６００戸）に事業とワークショップの広報を行った。

(2) ワークショップのメンバー

ワークショップを行うにあたり、ＮＰＯが地域住民、学校、町役場、国等と調整を行い、地元代表者、小学生とその父兄、学校関係者など幅広いメンバー構成とした。メンバーは表２の通りである。

表－２　ワークショップメンバー

田沢小学校関係者　（大人）	１６人
田沢小学校　児童	３人
地元代表（須沢地区）	３人
ＮＰＯ法人女性みちみらい上越	５人
青海町建設課、教育委員会	７人
国土交通省	４人
計	３８人

3. ワークショップの内容と検討結果

(1)【第１回】既設地下道の学習、須沢地区に求め

られる要望やアイディア整理

事業者側で須沢地下横断歩道整備計画について説明した後、ＮＰＯが事前に調査した６箇所の地下横断歩道について、ワークショップのメンバーに、構造やデザイン、老朽化の状況、管理状況などをわかりやすく紹介した。

続いて４グループに分かれて「こんな地下道がいいな」というアイディア出しを行った。

各グループには、テーブルマネージャーとしてＮＰＯのスタッフが一人ずつ入り、進行役として意見の出しやすい雰囲気づくりや意見を分類したり、模造紙にまとめる等の手助けを行った。

その結果、地下道の構造に関しては、特に床・階段について多くの意見があげられた。また、より親しみのもてる地下道にするためのアイディアや、ごみのないきれいな地下道にしたい、という意見も出された。

図－５　ワークショップの様子

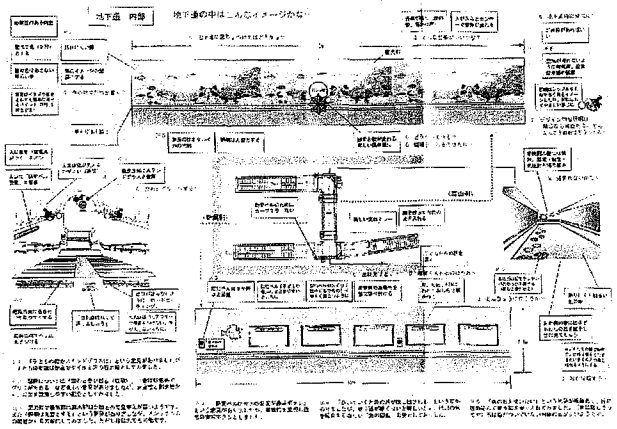
(2)【第２回】要望にもとづく具体的プランのしぼりこみ

前回出された意見をＮＰＯが整理し、その資料を見てもらいながら、前回のワークショップの内容を振り返った。その上で、グループごとに地下道の全体図を見ながら、より具体的なアイディアを出し合った。さらに、それぞれのグループに地下道の「周辺」「入口・上屋・階段」「壁・床」のうちどの部分についてプランを作るか選んでもらい、アイディアを絞り込んだプランを図面に落とし込んだ。

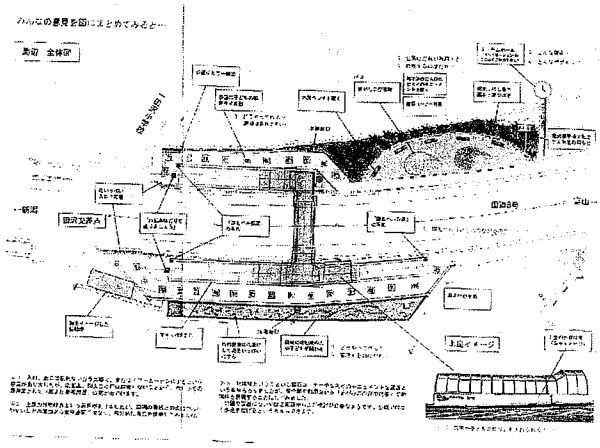
この作業により、第１回で出された意見が掘り下げられ、利用者の目から、使いやすい地下道にするための具体案が落とし込まれた。

(3)【第３回】全体のまとめ、今後の管理体制

第２回終了後、ＮＰＯが行政と調整し、ＮＰＯのスタッフを中心に、これまでの意見を集約するとともに課題を整理し、わかりやすく図にまとめた。



（図－６、７）



図－６　意見とりまとめ図（地下道内部）

図－７　意見とりまとめ図（地下道外部）

第３回目ではその資料を配布して、出された意見やアイディアが「みんなの共通意見であるか」「本当に必要なものか」「現実に可能か」を吟味し、プランの見直しを行った。また、地下道の清掃や花の植栽、掲示板の管理などについて誰がどのように行うのかについても投げかけ、各グループで検討した。

結果として、これまでの意見やアイディアをまとめると、「安全」「安心」「明るさ」「楽しさ」「快適さ」「優しさ」「情報性」「地域性」「参加型」の９つのキーワードに集約された。投げかけのあった地下道の清掃や花の植栽、掲示板の管理については、地域住民と田沢小学校の児童で行うという意見が出された。

図―８　参加者

全３回のワークショップを終え、参加者からは「参加して楽しかったです。この地下道を大事にします」、「老若男女みんなで楽しく地下道のことを話し合ったワークショップは、いい経験でした。完成が楽しみ」、「本当に使う人の立場になって『意見を磨く』という第３回の話し合いはとても有意義だったと思います」など、充実した内容であったことをうかがわせる感想がよせられた。

4. ワークショップの成果

ＮＰＯと行政の協働によるワークショップを行ったことにより以下の成果があった。

●行政側　・利用者のニーズや様々なアイディアを把握することができた。　・ＮＰＯのかけはしにより、地域住民にわかりやすい言葉で意見などを伝えることができ、また、本当に実現可能なものなのかどうかなど、利用者側と行政側の立場を考えた最終的な意見を集約できた。

●地域住民側　・ワークショップへ参加したことにより、地下横断歩道計画への理解が深まり、地下横断歩道の管理を地域で行う意識が芽生えた。・利用する側からの意見・要望・アイディアについて行政側から工事に最大限反映してもらい、より安全で親しみのある地下横断歩道計画とすることができた。

●行政側、地域住民側双方の利点　・行政の意見と住民の意見が対立することなく折り合った形でまとまり、行政、ＮＰＯ、住民３者のよきパートナーシップが築かれた。

5. 課題

今回のケースでは、地下横断歩道の内装や外装・安全施設等についてワークショップを行ったが、計画段階から余裕をもって住民の意見を聞く機会を設けておく必要があった。また、ＮＰＯと協働で行ったワークショップは最適な手法であったか、運営方法は適切だったか、を検証するとともに、事前・事後の住民意識の変化や満足度調査を行い、他事業への活用を図る必要がある。

6. おわりに

ワークショップでは、事業者側が日頃気付かない多くのアイディアや貴重な意見を頂いた。これから地下横断歩道工事を進めていく上で、このワークショップで出された意見やアイディアを最大限工事に反映した。本ワークショップにあたって、ご協力頂いた参加者の皆様、ＮＰＯ法人 女性みちみらい上越の皆様に感謝の意を表します。

Teamwork in workshops involving Women`s Perspectives on Roads, an NPO, led to the successful completion of plans for the Suzawa pedestrian underpass.

By Yoshifumi YAMAZAKI, Susumu KONDOU

Input from local residents is an essential first step when initiating plans to build safe and convenient facilities for pedestrians and bicyclists. In the case of the Suzawa pedestrian underpass below route 8, the Takada Office of River and National Highway consulted closely with Omi-machi community members, receiving particular assistance during workshops with Women's Perspectives on Roads, whose members offered invaluable ideas regarding a facility that will mainly be used by elementary school children, women, and older residents. Thanks to everyone's valuable cooperation, this project will reflect the community's needs and will also serve as a model that can be applied elsewhere in future.